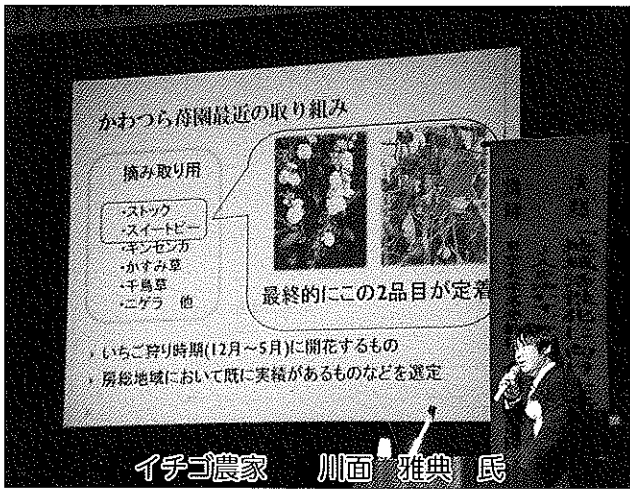


山武農業事務所 普及だより 山武農業事務所  
 山武農林業振興普及協議会  
 〒283-0006 東金市東新宿1-11  
 ☎ 0475-54-0226 FAX 52-7914  
 ホームページ <http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-sanbu/>

# 「平成25年度 山武農業フォーラム」が 開催されました!!



イチゴ農家 川面 雅典 氏



ミニトマト農家 早川 茂芳 氏

事例発表は、横芝光町の早川茂芳氏「ミニトマトの新たな取り組み」と山武市の川面雅典氏「観光苺園における顧客満足度の向上」と題して、6次産業化を視野に入れた若い感覚での農業経営の発表がありました。参加者からは、就農してわずかながら、新しい視点で農業経営に頑張っている姿が印象に残りました。また、今村先生からも「地域を興す頼もしい経営者だ」

11月28日、東金文化会館小ホールに、農業者と関係者200名が集い、「山武に活力を呼ぶ農業の6次産業化」人を活かす、資源を生かす、地域を興す」をテーマに、山武農業フォーラムが開催されました。

その後、東京大学名誉教授の今村奈良臣氏により、「地域活性化に向けた新産業創出」と題して、6次産業化による地域活性化について、示唆に富む講演を頂きました。参加者が、これからの山武農業を考え、更なる地域農業・農村の活性化や発展に取り組むことへの理解を深めたフォーラムでした。



東京大学名誉教授 今村 奈良臣 氏

# マキの害虫に 注意下さい！

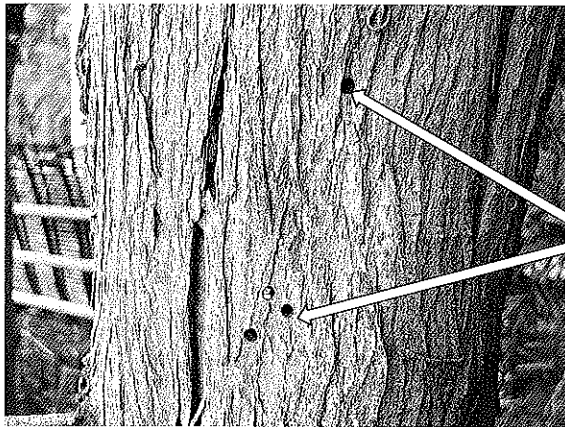
マキを枯死させる害虫「ケブカトラカミキリ」による被害が山武郡内でも見られています。

このカミキリ(写真参照)は、体長が約1cmと小型で、幼虫が形成層を食害することで木を枯死させます。木の中で越冬した成虫が4〜6月にかけて4mmほどの穴(脱出孔)を空けて脱出し、すぐに交尾・産卵します。

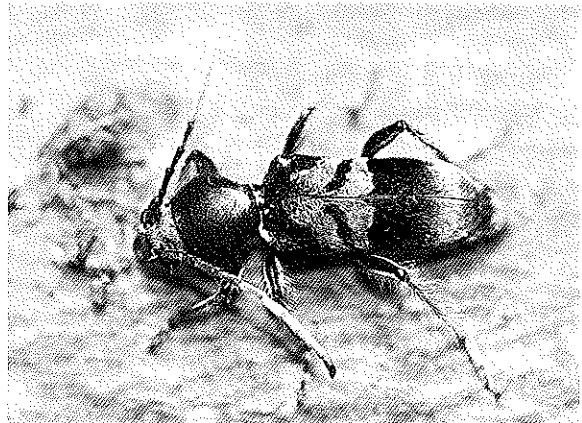
成虫の脱出時が、防除時期となりますので幹を中心にトレボンMCまたはEWの2000倍液を散布し防除を行います。

被害の特徴は、葉のつやが悪く、黄色くなり、やがて枯死します。脱出孔が無数あり、樹皮をはいで食害痕が確認できれば、この害虫の被害と判断が出来ます。

詳細につきましては、農業事務所までお問い合わせ下さい。



脱出孔(約4mm)



ケブカトラカミキリの成虫

# 注意 そらまめの土壌 伝染性ウイルス

山武管内のそらまめで、土壌伝染性のウイルスが確認されました。今回確認されたウイルスは、土壌中のカビが媒介するものと考えられます。今まで、そらまめで発生していたウイルス病は、アブラムシ媒介のウイルスが主です。

症状は、従来のアブラムシ媒介のウイルスと似たような症状ですが、図1〜3のような症状が多数見られる場合、直ちに以下の対策を行って下さい。

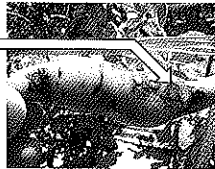


図1 莢のえそ症状

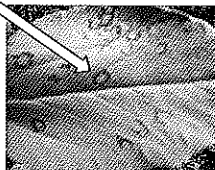


図2 葉のえそ輪紋



図3 株全体の萎縮

輪のような跡が見られます。

# 対策

① 感染した畑の土壌を他の畑に持ち込まない！

感染の疑われる圃場では、トラクター等の管理作業を最後にし、使い終わったトラクター等は水できれいに洗い乾燥させてください。

② 感染した株の迅速な抜き取り  
感染の疑われる株は、他の株への感染源となるので、早急に抜き取ってください。

③ 連作を避ける  
症状が多かった圃場では、ウイルスを保毒したカビが土壌中に数年残るので、少なくとも4〜5年は栽培を控えてください。

④ 排水対策の実施  
水のたまりやすい圃場では発生が助長されます。

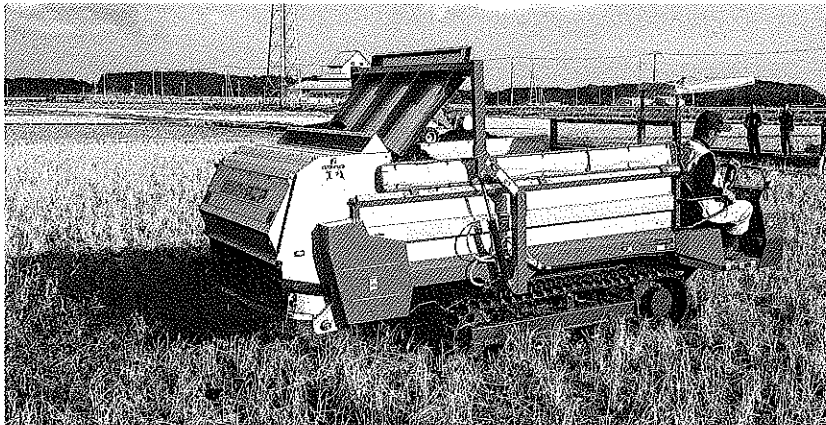
※現在、試験研究機関と協力して、その他の対策試験を実施しています。結果が出次第、農協等を通じて早急に報告いたします。

# 耕畜連携による 資源循環の取組 が始まりました

横芝光町ホールクロップ推進組合では、平成20年度から稲WCSの生産に取り組んでいます。稲WCSの生産に固定されている地区もあり、収量の低下が見られている圃場があります。

稲WCSは、稲の穂と茎葉を専用機で収穫し、乳酸菌発酵させて、乳牛・肉牛に給与する飼料です。稲WCS生産圃場では、茎葉部も圃場から持ち出し、茎葉部も圃場の地力が低下する恐れがあります。

そのため、稲WCSを給与した家畜排泄物由来の堆肥を稲WCS生産圃場に散布し、資源を循環させることになりました。昨年度、県単事業を利用してマニアスプレッターを導入し、今冬から本格的に堆肥散布が始まります。それに合わせて、堆肥研究会が開催され、マニアスプレッターの使用方法について、



メーカーから説明を受け、実際に堆肥の散布を行いました。また、堆肥の利用の注意点等について、普及指導員から説明を行いました。

検討を重ね、1t/10aの堆肥が圃場に散布され、次年度の生産に向けた準備が始まっています。

# 水田のノビエ 対策について

昨年の水稲の栽培では、生育後半にノビエが残った圃場が多く見られました。

一般的に一発除草剤は、ノビエの葉齢が小さい時の方が効果的ですが、散布の遅れ等によってノビエが残った場合は、ノビエの葉齢を調べ(図)、適切な剤を使用しましょう。なお、除草剤の散布時期は、発生したノビエの平均ではなく、一番進んだノビエの葉齢に合わせます。

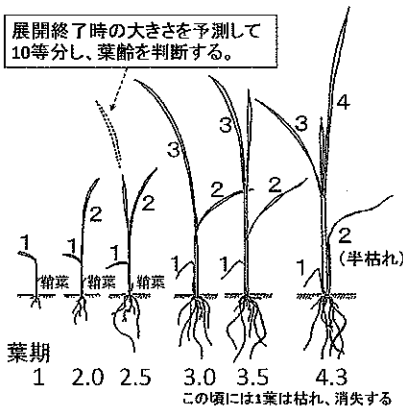


図 ノビエの葉期 (日本植物調節剤研究協会HPより引用・一部改変)

表 ノビエに使用できる主な中・後期剤

薬 剤 名	使用できるノビエの葉期
クリンチャー1キロ粒剤 (1.5kg/10a散布の場合)	5葉期まで
クリンチャーEW	6葉期まで
クリンチャーバスME液剤	5葉期まで
フォローアップ1キロ粒剤	5葉期まで
ワイドアタックSC	5葉期まで

ただし、ホタルイ発生田では、ノビエよりホタルイの方が早く葉齢が進むため、ホタルイの葉齢が進まないうちに散布します。雑草発生量が多い圃場では、初期剤と中期剤による体系処理が効果的です。ノビエの葉齢が進んだ場合は、表のような中・後期剤を使用時期に注意し、散布します。

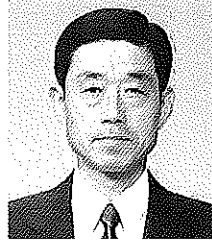
また、除草剤を効果的に使うために、畦畔の整備をしっかりと行いましょう。

# 平成25年度認証 指導 農業士・農業士の紹介

今年度新たに8名の指導農業士及び農業士が認証されましたので御紹介します。

指導農業士

○細谷 富男氏



東金市で水稲を営んでいます。

○並木 とき子氏



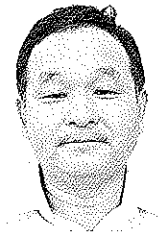
山武市で水稲を営んでいます。

○富谷 亜喜博氏



山武市で施設野菜と露地野菜を営んでいます。

○伊橋 正吉氏



横芝光町で養豚を営んでいます。

農業士

○鈴木 茂光氏



山武市で酪農を営んでいます。

○金杉 悟氏



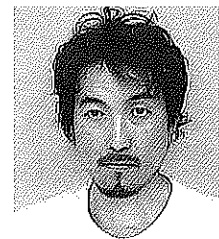
山武市で水稲と露地野菜を営んでいます。

○篠崎 俊幸氏



九十九里町で施設野菜と水稲を営んでいます。

○行木 誠氏



九十九里町で施設野菜と水稲を営んでいます。

平成26年度  
「農業経営体育成セミナー」  
の参加者を募集します

新しく農業を始めた皆さんを対象に、同世代のネットワーク作りと、農業の基礎的・専門的な知識・技術を身に付ける事を目的に開催します。是非御参加ください。

・対象

新規に就農した概ね35歳までの青年農業者

・内容

農業技術に関する講義及び現地視察等

・開催場所

山武農業事務所及び同管内または管外の現地等

・研修期間

平成26年5月から3年間

・参加費

原則として無料

・申込み先及び方法

山武農業事務所改良普及課まで御連絡ください

住所 東金市東新宿1-11

0475-54-0226

